

# 平安京左京四条一坊三町跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告  
二〇二二―三

平安京左京四条一坊三町跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京左京四条一坊三町跡

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所





# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、公園整備に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

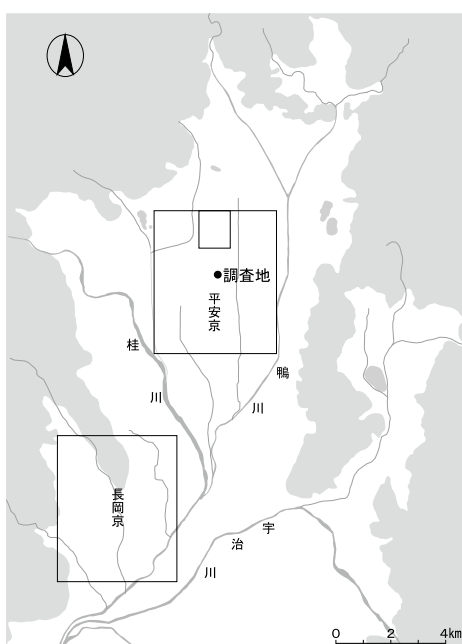
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和4年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 平安京跡（京都市番号 20 H 249）  |
| 2 調査所在地  | 京都市中京区壬生御所ノ内町13番地 錦坊城公園内  |
| 3 委 託 者  | 京都市 代表者 京都市長 門川大作   |
| 4 調査期間   | 2022年6月14日～2022年7月21日   |
| 5 調査面積   | 57.5㎡   |
| 6 調査担当者  | 小檜山一良   |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。                                       |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）  |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度  |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。   |
| 11 遺構番号  | 調査区ごとに通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。  |
| 12 遺物番号  | 種類ごと通し番号を付し、写真番号も同一とした。土器類は番号のみとし、瓦類は「瓦」、土製品は「土」、石製品は「石」、銭貨は「銭」をそれぞれ番号の前に付けた。 |
| 13 本書作成  | 小檜山一良・中谷正和  |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。                                     |



(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 遺 跡	4
(1) 歴史的環境と立地	4
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	8
(1) 基本層序	8
(2) 遺構の概要	9
(3) 1区の遺構	9
(4) 2区の遺構	10
(5) 3区の遺構	11
4. 遺 物	13
(1) 遺物の概要	13
(2) 土器類	13
(3) 瓦類	16
(4) その他の遺物	17
5. ま と め	19

# 図 版 目 次

図版1	遺構	1区遺構平面図(1:50)
図版2	遺構	2区遺構平面図(1:50)
図版3	遺構	3区遺構平面図(1:50)
図版4	遺構	調査区断面図(1:60)
図版5	遺構	1 1区第2面全景(西から)
		2 1区第1面全景(東から)
図版6	遺構	1 2区第2面全景(北から)
		2 2区第1面全景(北から)

- 図版7 遺構 1 3区第3面全景（西から）  
 2 3区第2面全景（西から）  
 3 3区第1面全景（西から）  
 4 3区土坑8遺物出土状況（北西から）
- 図版8 遺物 土器類・瓦類

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	1区調査前全景（東から）	3
図4	2区調査前全景（北東から）	3
図5	3区調査前全景（南西から）	3
図6	2区重機掘削状況（北西から）	3
図7	3区調査状況（東から）	3
図8	3区転圧埋戻し状況（北西から）	3
図9	周辺調査位置図（1：5,000）	5
図10	基本層序（1：40）	8
図11	1区建物6実測図（1：50）	9
図12	1区建物6柱穴7（北西から）	10
図13	2区土坑1実測図（1：50）	10
図14	3区柱列14・16実測図（1：50）	11
図15	3区柱穴10・11実測図（1：50）	12
図16	3区土坑8土器出土状況図（1：20）	12
図17	土器実測図1（1：4）	14
図18	土器実測図2（1：4）	15
図19	軒瓦拓影及び実測図（1：4）	16
図20	その他の遺物拓影及び実測図（土製品は1：4、石製品・銭貨は1：1）	17

## 表 目 次

表 1	周辺調査一覧表 .....	6
表 2	遺構概要表 .....	9
表 3	遺物概要表 .....	13

## 付 表 目 次

付表 1	土器類観察表 .....	21
付表 2	瓦類観察表 .....	23
付表 3	土製品観察表 .....	24
付表 4	石製品観察表 .....	24
付表 5	銭貨観察表 .....	24



# 平安京左京四条一坊三町跡

## 1. 調査経過

### (1) 調査に至る経緯

調査地は、京都市中京区壬生御所ノ内町13番地の錦坊城公園内に所在する。平安京左京四条一坊三町跡にあたる。

京都市錦坊城公園の再整備に伴い、2020年度に京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）が試掘調査を実施したところ、平安時代の遺構・整地層が検出された。この結果を受けて、文化財保護課から発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて発掘調査を実施した。

調査の目的は、平安京左京四条一坊三町跡の遺構の確認と、当地の歴史の変遷を明らかにすることである。

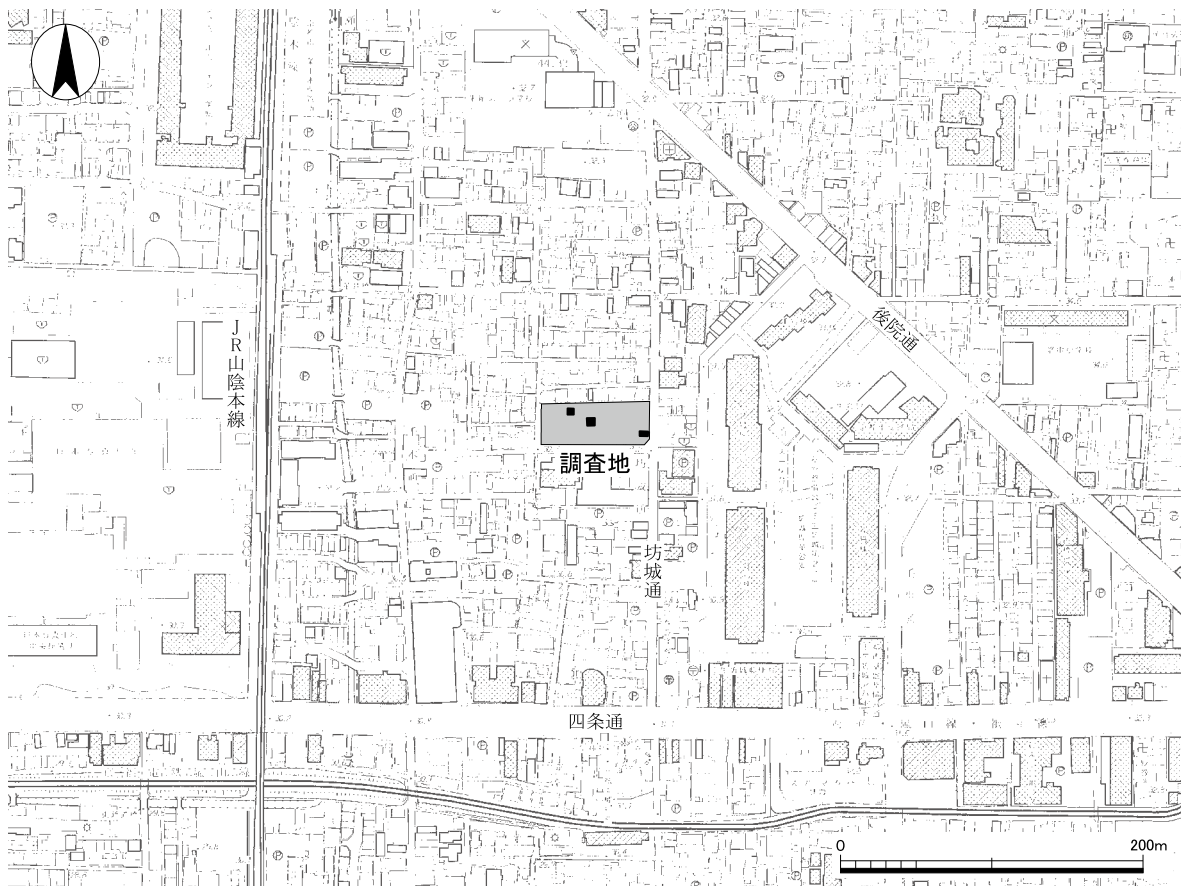


図1 調査位置図（1：5,000）

## (2) 調査の経過

調査区は、文化財保護課の指導の下、1～3区を設定した。西部の1・2区は三町の西三行北五門、東部の3区は坊城小路西築地心推定線の西側に位置する。調査面積は57.5㎡である。

2022年6月14日から準備工と3箇所の調査区の重機掘削を開始し、続いて1・2区の調査を並行して行った。1・2区の調査終了後に埋戻しを行い、次いで3区の調査を行った。1・2区では、地表下約0.8m（標高約30.4m）で平安時代後期の溝・土坑・柱穴などを検出した。さらに3区では、平安時代後期の溝・土坑・柱穴や、平安時代中期の溝・土坑・柱穴などを検出した。遺構の記録は、随時実測図を作成し、適宜写真撮影を行った。調査中の排土は、調査地内にフレコンバックを使用して仮置きした。各調査区は、ランマーやプレートを使用して転圧を行いながら埋戻しを行い、表面を真砂土で仕上げた。残土やガラ・樹根は搬出して処分した。2022年7月21日にすべての調査を終了し、撤収した。

調査中は適時、文化財保護課の検査・指導を受けた。

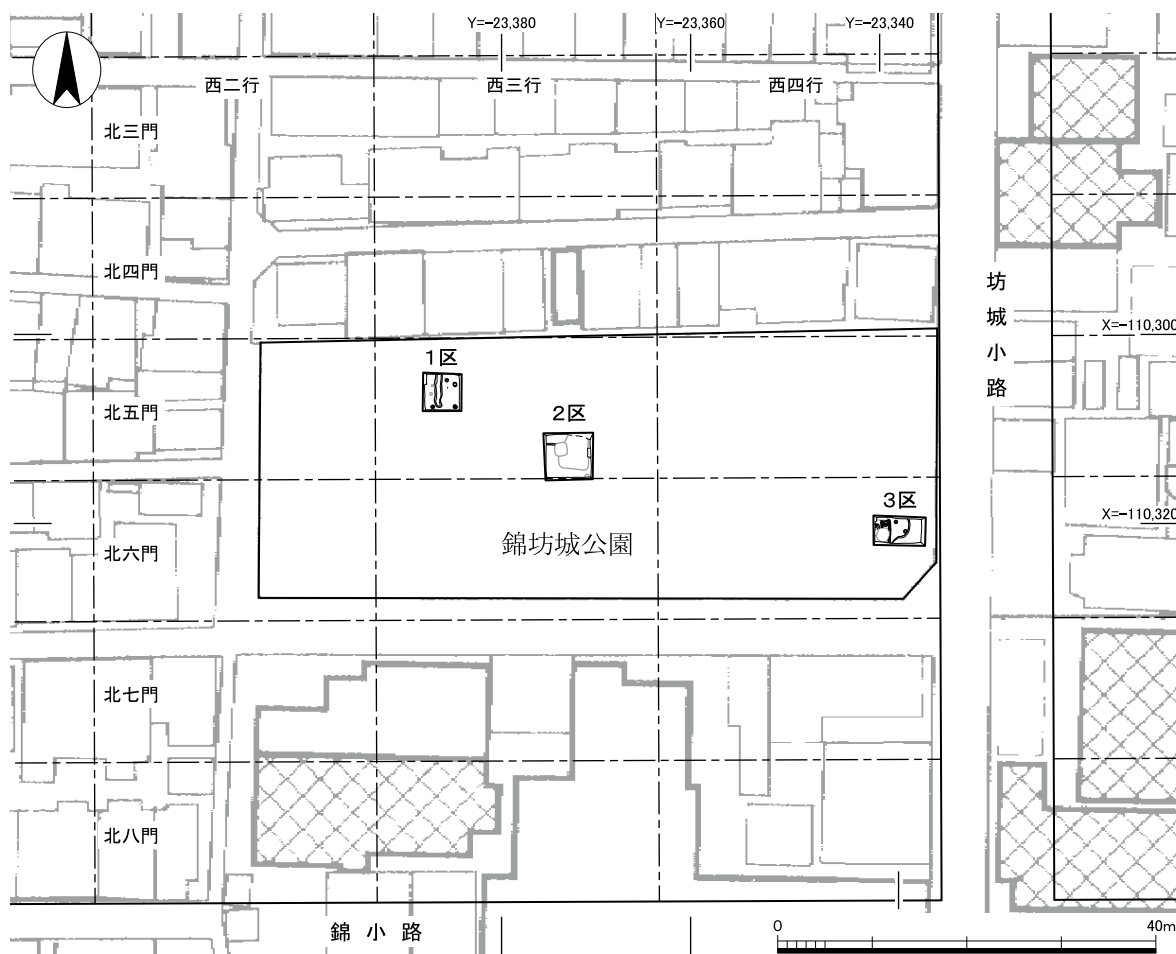


図2 調査区配置図 (1 : 800)





図3 1区調査前全景（東から）



図4 2区調査前全景（北東から）

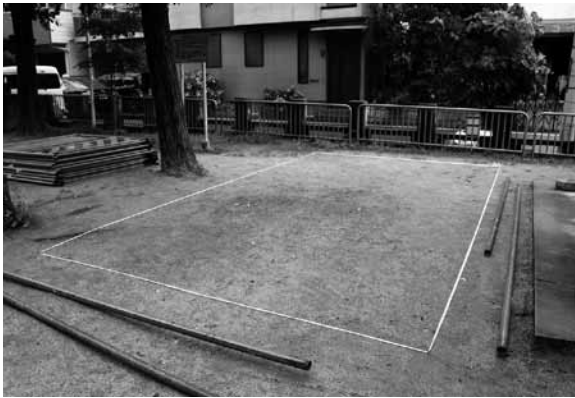


図5 3区調査前全景（南西から）



図6 2区重機掘削状況（北西から）



図7 3区調査状況（東から）



図8 3区転圧埋戻し状況（北西から）

## 2. 遺 跡

### (1) 歴史的環境と立地

調査地は平安京左京四条一坊三町の南東部に位置する。四行八門制では、西三行北五門・西四行北六門にあたる。北西約500mには弥生時代から古墳時代の遺跡である壬生遺跡があり、さらに北東約700mには縄文時代から古墳時代の遺跡である堀川御池遺跡が位置している。

調査地である左京四条一坊は、史料によると、二町・四から六町・八から十六町で宅地利用が確認できるが、今回調査区が位置する三町の居住者は不明である。二町では、嘉保二年(1095)に散位従四位下の大江公仲が罪に問われて配流される際に、邸宅を処分しており、財産処分状によって邸宅内の様子が明らかとなっている。大治二年(1127)には左大弁藤原為隆が仏堂などを建立し、大規模な庭園を造ったとされている。四町には12世紀前半に権中納言源国信の邸宅、五町には光孝天皇の皇子である是忠親王の御所である「南院」、六町には白河天皇の近臣であった内蔵頭藤原国明の邸宅、八町には右大臣藤原良相が建立した延命院があった。九・十町には、天元四年(981)に円融天皇が遷御した四条後院があった。その後、十五・十六町にあった太政大臣藤原頼忠の四条坊門大宮第の献上によって、あわせて4町規模の離宮が造られた。十二町には応保元年(1161)に焼失した記録の残る菅原貞衡の邸宅、十三町には12世紀前半に中納言藤原家成の邸宅、安元三年(1177)の「太郎焼亡」によって焼失した権中納言中宮大夫藤原隆季の邸宅、十四町には承保四年(1077)に焼亡した民家の記録が残っている。

このように平安時代前期・中期の土地利用状況は部分的に明らかとなっているが、平安時代後期以降は邸宅だけでなく民家の記録が残っていることから、土地の細分化が進み始めていたことがわかる。

### (2) 周辺の調査(図9、表1)

これまでの左京四条一坊周辺の調査では、平安時代を中心として中世から近世の遺構が多く検出されており、なかには平安時代を遡る遺物が出土した地点もある。以下、周辺調査の概要を述べる。図中の調査番号は、本文中の番号と一致する。

平安時代を遡る遺物は、二・五・六・七町の調査(5・8)で、平安時代の遺物包含層から弥生時代と古墳時代の土器が出土した。当該期の集落などが周辺にあったことが窺える。

平安時代の遺構は、朱雀大路(試10)、四条坊門小路(8、試11)などの路面が検出されており、街路が整備されていたことがわかる。さらに、一町で池(庭園)・六角小路の築地など(1～3、試4)、二町で池・掘立柱建物・井戸など(5)、三町で池(庭園)・池状堆積・湿地状堆積(試6～8、立9)、四町で池(庭園)・溝・井戸など(7、立12)、五町で掘立柱建物・錦小路南側溝(8、立16)、六町で四条坊門小路側溝・路面など(8、試11)、七町で土坑群(8)、十二町で四条大路北側溝(試13)、十三町で池や井戸(10)など多くの遺構が検出されている。特に、二町では、平

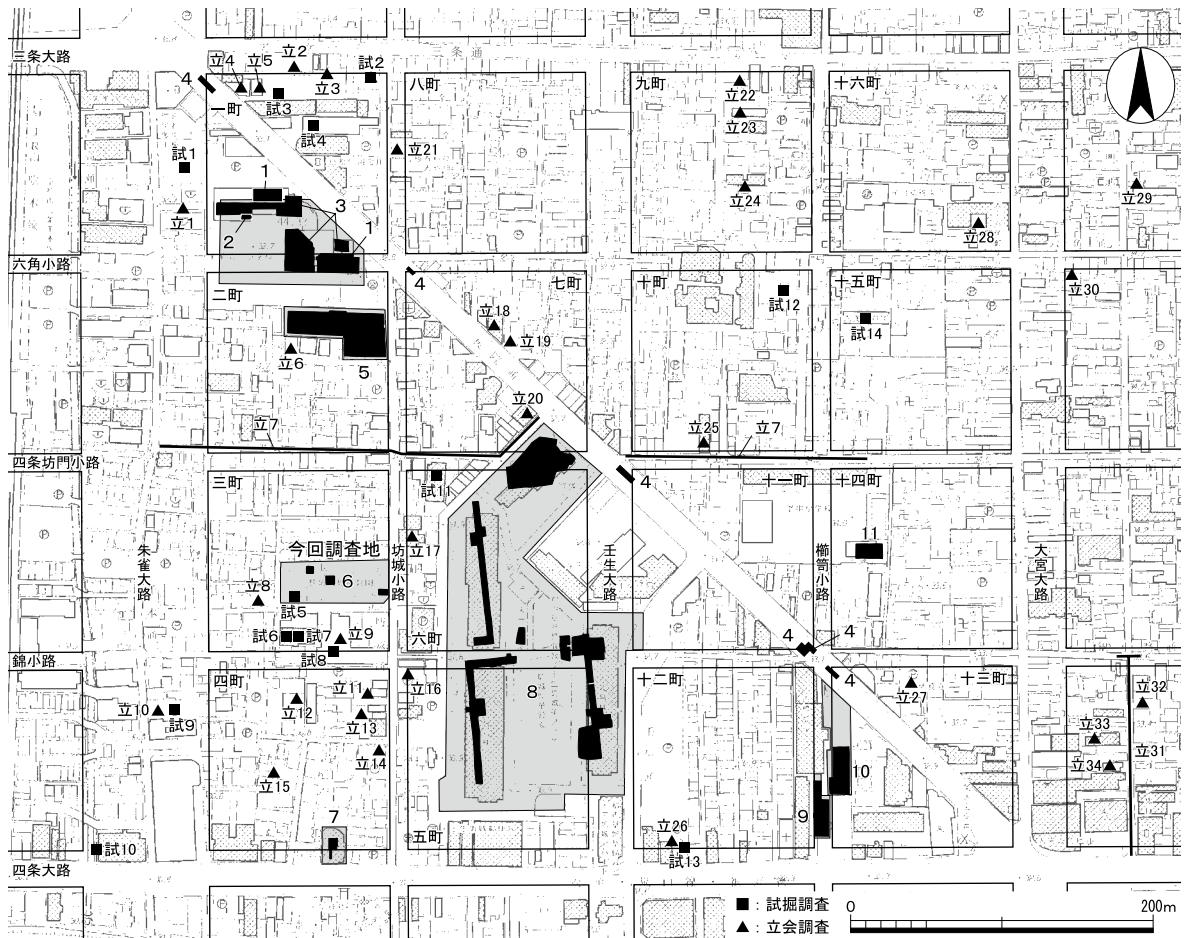


図9 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

安時代前期・中期の宅地内排水施設、平安時代後期の池を中心とする庭園遺構など、史料に記述された公家の邸宅や持仏堂とみられる遺構が検出されている (5)。

中世から近世の遺構は、十町で室町時代の池 (試12)、十二町と十三町の間で室町時代後期の堀・溝など (9)、江戸時代の土坑 (10)、十四町で鎌倉時代の土坑、室町時代の井戸 (11) などが検出されている。時期は明らかでないが、試掘および立会調査で、二町で四條坊門小路北側溝 (立7)、七・九・十町で湿地状堆積 (立20・23・25) などが検出されている。

周辺の調査では、平安時代には条坊道路が敷設され、前期には建物・井戸・池 (庭園) などが構築されるが、中期には遺構、遺物の出土が減少し、一時的に土地利用が低調であったと推察できる。しかし、後期には溝・井戸・池 (庭園) などが構築され、土地利用が再び活発になったことが判明している。また、平安時代前期から鎌倉時代までの池や湿地状堆積が多く、調査地点一帯が扇状地外縁部に立地することから、湧水量が豊富な環境であったことが窺える。

表1 周辺調査一覧表

No.	条 坊	方法	調査概要	文 献
1	左京四条一坊一町	発掘	平安時代の池など。	『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧1981』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年
2	左京四条一坊一町	発掘	平安時代の池。中世の溝。	『平安京左京四条一坊』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
3	左京四条一坊一・二町	発掘	平安時代前～中期の六角小路南築地下暗渠・北側溝・北築地内溝、井戸、池など。平安時代後期の六角小路路面・北築地・北側溝・南側溝、井戸、溝、瓦溜など。遺物:「朱雀院」墨書の題箋など。	『平安京左京四条一坊』『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
4	左京四条一坊一・七・十一・十三町及び朱雀大路など	発掘	平安時代後期から鎌倉時代の壬生大路東側溝および櫛笥小路東側溝。室町時代の溝、湿地。江戸時代の井戸、溝、土坑、落込み。	『平安京左京四条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2021-1(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2021年
5	左京四条一坊二町	発掘	平安時代前期の掘立柱建物、溝、水場、井戸、土坑、ピット、落込み。中期の溝、井戸、枡状遺構。後期の礎石建物、石組溝、柵、築地、入江、岬、瀬落しなど。	『平安京左京四条一坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-10(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
6	左京四条一坊三町	発掘	平安時代中期の建物、溝、土坑、落込み、整地層。平安時代後期の坊城小路西築地内溝、溝、土坑、柱穴、整地層。	本報告
7	左京四条一坊四町	発掘	平安時代前期の井戸。平安時代後期の溝、井戸、土坑、柱穴。磁州窯壺片。	『左京四条一坊』『平安京跡発掘調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
8	左京四条一坊五・六・七町	発掘	平安時代前期の井戸・土坑。平安時代中期の井戸。平安時代後期の掘立柱建物。平安～鎌倉時代の四条坊門小路路面・側溝。中世の掘立柱建物。遺物:弥生・古墳時代の土器、平安時代の墨書土器など。	『平安京跡発掘調査報告一左京四条一坊一』平安京調査会 1975年
9	左京四条一坊十二・十三町	発掘	平安時代以前の旧流路、火山灰堆積。平安時代前期の湿地状堆積。室町時代後期の土坑、堀、溝など。	『平安京左京四条一坊十二・十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-33(財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
10	左京四条一坊十三町	発掘	平安時代前～中期の池。平安時代後期の井戸。中世の井戸、溝、土坑など。近世の土坑など。	『平安京左京四条一坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-10(財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年
11	左京四条一坊十四町	発掘	鎌倉時代の土坑。室町時代の井戸。近世の井戸・土坑・土取穴。	『平安京左京四条一坊十四町』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年
試1	左京四条一坊一町・朱雀大路跡	試掘	-0.9mで近世堆積層、-1.1mで暗褐色粗砂混じりシルトを主体とする朱雀大路路面。東側溝と見られる南北方向溝を複数。	『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試2	左京四条一坊一町	試掘	-1.1mで三条大路南溝か。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
試3	左京四条一坊一町	試掘	平安時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
試4	左京四条一坊一町	試掘	平安時代の池跡。	『平安京左京四条一坊一町跡 No.4』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年
試5	左京四条一坊三町	試掘	-0.6mで灰色泥砂の平安時代中～後期の整地土、-0.9mで黄灰色泥砂の平安時代前期の整地土、-1.2mでにぶい黄色微砂の地山。	『平安京左京四条一坊三町跡 No.42』『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試6	左京四条一坊三町	試掘	-0.6mで平安時代前期の遺物包含層。-0.8mで平安時代前期の池状堆積。	『平安京左京四条一坊三町跡 No.12』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
試7	左京四条一坊三町	試掘	-0.62mで平安時代の遺物包含層。-0.82mで平安時代の池状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度』京都市文化観光局 1994年
試8	左京四条一坊三町	試掘	平安時代中期の池。平安後期の錦小路北側溝。	『平安京左京四条一坊三町跡 No.24』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
試9	左京四条一坊四町・朱雀大路跡	試掘	-1.0mで黒褐色粘土、-1.2mでオリブ褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡試掘調査概報 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
試10	右京四条一坊四町	試掘	-1.4mで鎌倉時代の遺物包含層。-1.5m以下で平安時代末の朱雀大路路面、不明路面。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
試11	左京四条一坊六町	試掘	-0.76mで平安時代前期～鎌倉時代の四条坊門小路路面・南側溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
試12	左京四条一坊十町	試掘	-0.66mで室町時代の遺物包含層。-0.9mで室町時代の池肩口。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
試13	左京四条一坊十二町	試掘	四条大路北側溝。敷地北東端で室町時代の整地層。	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
試14	左京四条一坊十五町・旧本能寺の構え	試掘	-0.9mで土坑墓、中世～平安時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
立1	左京四条一坊一町	立会	-0.66mで灰黄褐色泥砂、-0.93mで灰オリブ色粗砂の地山、-1.1mで明褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立2	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立3	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立4	左京四条一坊一町	立会	-1.6mで時期不明の湿地状堆積。-1.9m以下で緑灰色粘土の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年

No.	条 坊	方法	調査概要	文 献
立5	左京四条一坊一町	立会	平安～鎌倉時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立6	左京四条一坊二町	立会	-0.71mで平安時代中期・不明の池状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
立7	左京四条一坊二・七・十・十五町	立会	四条坊門小路北側溝。	『左京四条一坊』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年
立8	左京四条一坊三町	立会	-0.66mで褐灰色砂礫(氾濫堆積)、-1.21mで明褐色砂礫(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立9	左京四条一坊三町	立会	-0.78mで錦小路路面、-1.03mで平安時代前期の湿地状堆積、-1.18mで平安時代前期の池・洲浜。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立10	左京四条一坊四町	立会	-0.82mで砂礫地山上で鎌倉時代の湿地堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
立11	左京四条一坊四町	立会	-0.97mでオリーブ黒色砂礫(時期不明河川堆積)、-0.9mで灰色微砂混粘土(中世包含層)、-1.2mでオリーブ褐色細砂(時期不明河川堆積)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立12	左京四条一坊四町	立会	平安時代後期～鎌倉時代の池・洲浜。銭貨入り壺。	『平安京左京四条一坊四町(05HL167)』『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
立13	左京四条一坊四町	立会	-0.4mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立14	左京四条一坊四町	立会	-1.13mで平安時代後期の湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
立15	左京四条一坊四町	立会	-0.77mでにぶい黄褐色粗砂(シルト混)、-0.9mで明黄褐色シルトの地山、-1.24mで灰白色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立16	左京四条一坊五町	立会	-0.9mで平安時代後期の錦小路南側溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
立17	左京四条一坊六町	立会	-0.7mで平安時代中期の遺物包含層、池状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
立18	左京四条一坊七町	立会	-2.0m以下、褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立19	左京四条一坊七町	立会	-0.23mで暗灰黄色泥砂、-0.41mで明黄褐色砂礫の地山、-0.93mで明黄褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立20	左京四条一坊七町	立会	-0.75mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
立21	左京四条一坊八町	立会	-0.82mで室町時代前期の遺物包含層、-0.95mで坊城小路路面。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立22	左京四条一坊九町	立会	-1.0mで室町時代の東西溝、-1.24mで黄褐色細砂の地山、-1.67mで明黄褐色粗砂の地山、-0.63mで黄褐色粗砂の地山を切って鎌倉時代の土坑、-0.87mで橙色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立23	左京四条一坊九町	立会	-1.0mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
立24	左京四条一坊九町	立会	-0.5m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立25	左京四条一坊十町	立会	-0.5mで鎌倉～室町時代の遺物包含層、-0.4mで湿地状堆積、-2.2mで砂礫地山。	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
立26	左京四条一坊十二町	立会	-0.95mでオリーブ褐色粘質土、-1.34mで灰色粘質土、-1.57mで明黄褐色砂礫の地山、-1.35mで灰色粘質土の中世以降包含層、-1.52mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立27	左京四条一坊十三町	立会	-0.8m以下、近世の包含層。-1.0m以下、浅黄色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
立28	左京四条一坊十六町	立会	-1.34mで暗オリーブ灰色粘質シルト。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立29	左京四条二坊一町	立会	-0.7mで灰色泥砂(旧耕作土)、-0.85mで明緑灰色微砂混じりシルト(湿地状堆積)、-0.68mで土坑2基・ピット1基(共に時期不明)、-1.2mで黄褐色砂質シルト(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立30	左京四条二坊二町	立会	-0.92mでにぶい黄色砂礫の地山。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
立31	左京四条二坊四町	立会	-1.1mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
立32	左京四条二坊四町	立会	-0.25mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立33	左京四条二坊四町	立会	-1.42mで明褐色細砂(地山)。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局 2018年
立34	左京四条二坊四町	立会	-0.5mまで盛土。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図10)

調査区は錦坊城公園内に位置する。地表面の標高は約31.2mである。

1区 東壁では、上から近現代盛土層が厚さ約0.65m、中世耕作土層が厚さ約0.2m、その下が厚さ約0.2mの平安時代後期整地層、その下が黄灰色シルトの地山となる。

平安時代後期整地層の上面を第1面、地山面の上面を第2面として調査を行った。

第1面では平安時代後期の溝・土坑を検出した。第2面では平安時代中期の掘立柱建物・溝を検出した。

2区 南壁では、上から近現代盛土層が厚さ約0.65m、中世耕作土層が厚さ約0.25m、その下が厚さ約0.25mの平安時代後期整地層、その下が暗灰黄色砂礫の地山となる。

平安時代後期整地層の上面を第1面、地山面の上面を第2面として調査を行った。

北東部に大規模な攪乱があり、検出した遺構は少ないが、第1面では平安時代後期の土坑・柱穴を検出した。第2面では平安時代中期の落込みを検出した。

3区 南壁では、上から近現代盛土層が厚さ約0.6m、中世耕作土層が厚さ約0.2m、その下が厚さ約0.25mの平安時代後期整地層、その下が厚さ約0.15mの平安時代中期整地層、その下が暗褐色砂礫の地山となる。

平安時代後期整地層の上面を第1面、平安時代中期整地層の上面を第2面、地山面の上面を第3面として調査を行った。

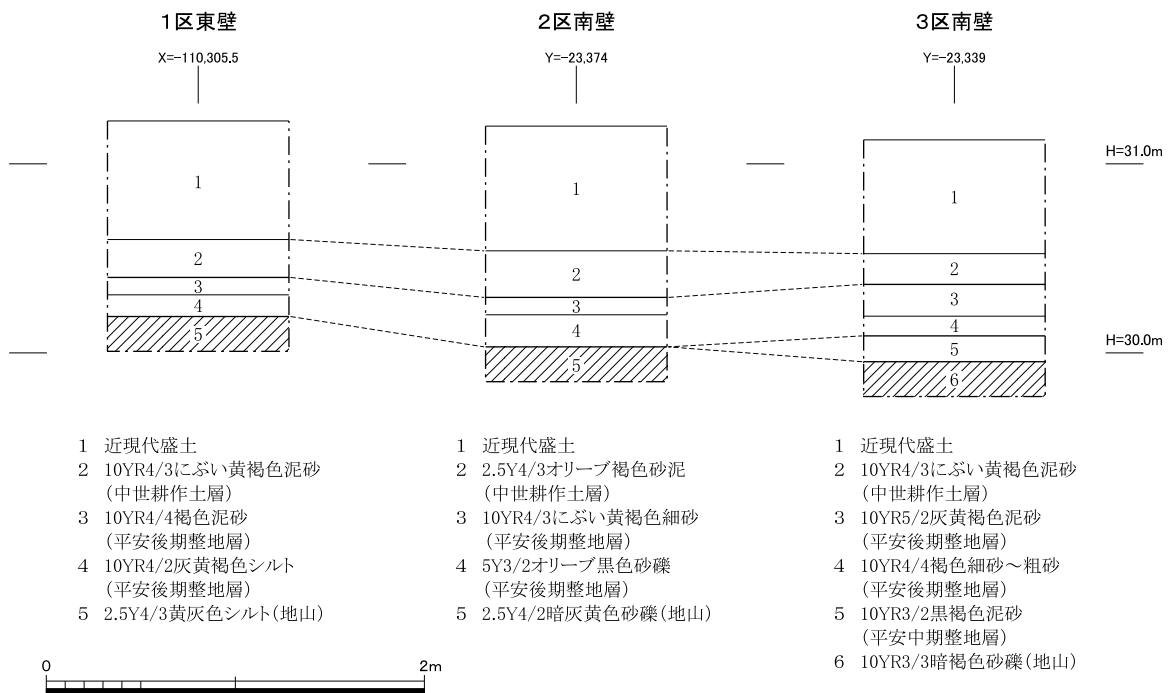


図10 基本層序 (1:40)

表2 遺構概要表

時代	遺構		
	1区	2区	3区
平安時代中期	溝5、建物6	落込み4	溝28・32、落込み35、柱穴29、柱列14・16、石列22、土坑23、整地層
平安時代後期	溝1・2・4、土坑3、整地層	土坑1・2、柱穴3、整地層	溝7・13、柱穴10・11・20、土坑6・8、整地層

第1面では平安時代後期の土坑・溝・柱穴を検出した。第2面では平安時代中期の柱列・石列・土坑・柱穴を検出した。第3面では平安時代中期以前の溝・落込み・柱穴を検出した。

## (2) 遺構の概要 (表2)

調査区で検出した遺構は、平安時代の掘立柱建物・溝・土坑・柱穴・柱列・石列・落込み、中期と後期の整地層などがある。

以下、調査区ごとに遺構の古いものから順次概説する。

## (3) 1区の遺構 (図版1・5)

### 第2面 (平安時代中期)

**溝5** 調査区の中央で検出した南北方向の溝である。断面形は浅い皿形を呈する。南北3.5m以上、幅0.7~0.8m、深さ約0.1m。北は調査区外に延びる。埋土は灰黄褐色砂泥を主体とする。

**建物6 (図11・12)** 調査区の南東部で検出したL字状に配置された3基の柱穴(柱穴6~8)からなる掘立柱建物である。建物の南東隅にあたる。柱穴は径約0.4m。柱間は東西・南北ともに約2.4m(8尺)。南側の2基の柱穴には八角形の柱痕が確認できる。柱痕跡から推測される柱径は約0.2mである。建物の方位は、北に対し東へ約0.6度振る。

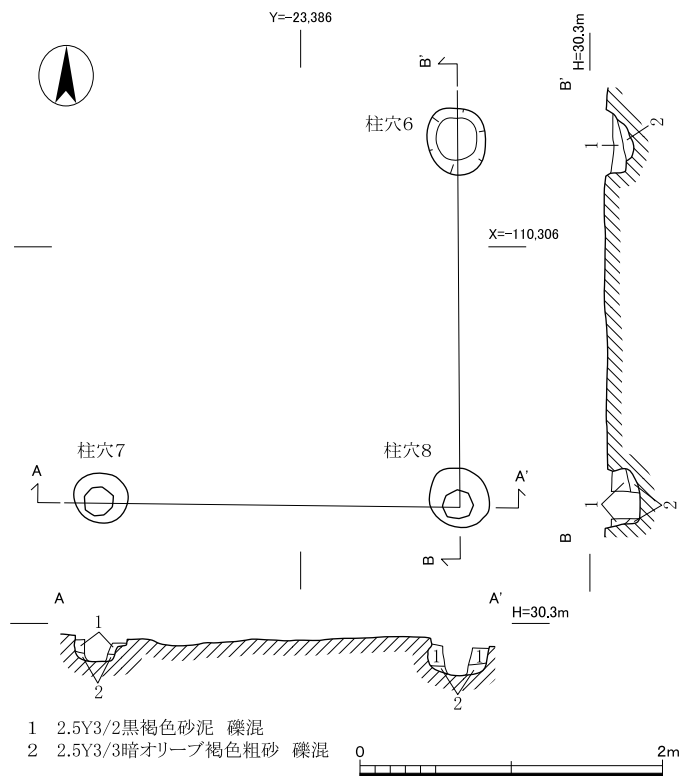


図11 1区建物6実測図(1:50)

### 第1面 (平安時代後期)

**溝1** 調査区の北端で検出した東西方向の溝である。断面形は皿形を呈する。東西3.5m以上、幅0.8~

0.9m、深さ約0.3m。東側と西側は調査区外に延びる。埋土はにぶい黄褐色泥砂を主体とする。三町の南北中心地点から約4m南に位置する。

**溝2** 調査区の南東部で検出した東西方向の溝である。断面形は皿形を呈する。東西2.1m以上、幅約0.4m、深さ約0.1m。東側は調査区外に延びる。埋土は暗灰黄色泥砂を主体とする。

**土坑3** 調査区の南西隅で検出した。南北約0.7m、東西0.5m以上、深さ約0.1m。西側は調査区外となる。埋土は褐灰色砂泥を主体とする。ほぼ完形の平瓦や土器類が出土した。

**溝4** 調査区の南端で検出した東西方向の溝である。断面形は皿形を呈する。東西3.6m以上、幅0.4m以上、深さ約0.2m。東側・西側・南側は調査区外に延びる。埋土は灰黄褐色泥砂を主体とする。



図12 1区建物6柱穴7（北西から）

#### (4) 2区の遺構（図版2・6）

##### 第2面（平安時代中期）

**落込み4** 調査区の北西部で検出した。東西2.3m以上、南北1.0m以上、深さ約0.1m。北側と西側は調査区外に延び、東側は攪乱で削平される。埋土はオリブ黒色砂礫を主体とする。

##### 第1面（平安時代後期）

**土坑1**（図13） 調査区の中央部で検出した。平面形は隅丸方形を呈する。南北約1.7m、東西約1.6m、深さ約1.1m。東側は攪乱で削平される。埋土は灰黄褐色砂泥を主体とする。土器類と軒平瓦が出土した。

**土坑2** 調査区の北東部で検出した。南北約0.6m、東西0.2m以上、深さ約0.1m。北側と東側は調査区外となり、西側は攪乱で削平される。埋土は灰黄褐色砂泥を主体とする。

**柱穴3** 調査区の南東部で検出した。径約0.4m、深さ約0.2m。南側は調査区外となる。埋土は暗灰黄色泥砂を主体とする。

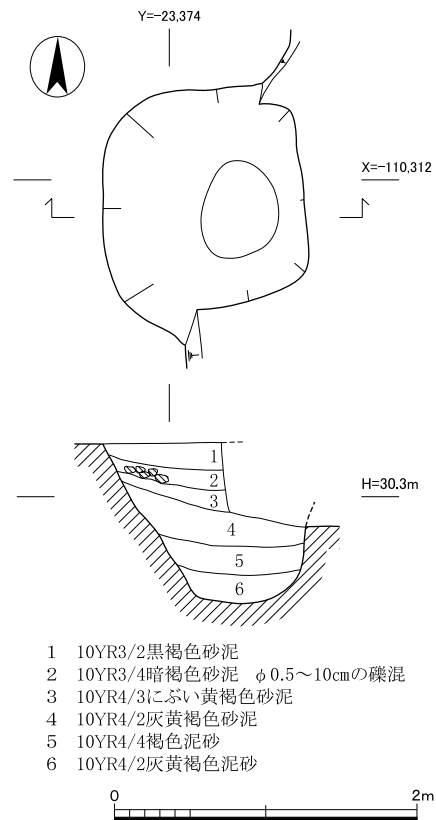


図13 2区土坑1実測図（1：50）



(5) 3区の遺構 (図版3・7)

第3面 (平安時代中期以前)

柱穴群 調査区の北西部で柱穴を7基検出した。掘形が径0.2~0.4m、深さ0.1~0.4m。柱穴29には根石が据えられる。建物は復元できない。

溝28 調査区の北西部で検出した南北方向の溝である。断面形はU字形を呈する。幅約0.2m、南北0.8m以上、深さ約0.05m。北側は攪乱により削平される。埋土は灰黄褐色泥砂を主体とする。

溝32 調査区の西部で検出した南北方向の溝である。断面形はU字形を呈する。幅約0.2m、南北2.2m以上、深さ約0.05m。南側は調査区外に延びる。埋土は黒褐色泥砂を主体とする。

落込み35 調査区の東側で広がる落込みである。東西3.1m以上、南北2.6m以上、深さ約0.3m。南側と北側、東側は調査区外に延びる。埋土は黒褐色泥砂を主体とする。

第2面 (平安時代中期)

柱穴群 調査区東半で検出した。径0.2~0.4m、深さ0.1~0.2m。

柱列14 (図14) 調査区の西寄りで検出した南北方向の柱列である。柱穴3基 (柱穴14・15・25) からなる。柱穴は径0.2~0.4m、深さ0.1~0.2m。柱間は北から1.1m・0.8m。方位は北に対し東へ約1度振る。

柱列16 (図14) 調査区の南東部で検出した東西方向の柱列である。柱穴2基 (柱穴16・19) からなる。柱穴は径約0.3m、深さ約0.3m。柱間は1.6m。方位は西に対し北へ約2度振る。

石列22 調査区の北東部で検出した東西方向の礎石列である。礎石の径は約0.3m。礎石間は約2m。東側の石は調査区外に続く。方位は西に対し北へ約3.5度振る。

土坑23 調査区の東部で検出した。平面形は不定形を呈する。東西約1.9m、南北約1.8m、深さ約0.1m。埋土は褐灰色砂泥を主体とする。土器類と軒平瓦が出土した。

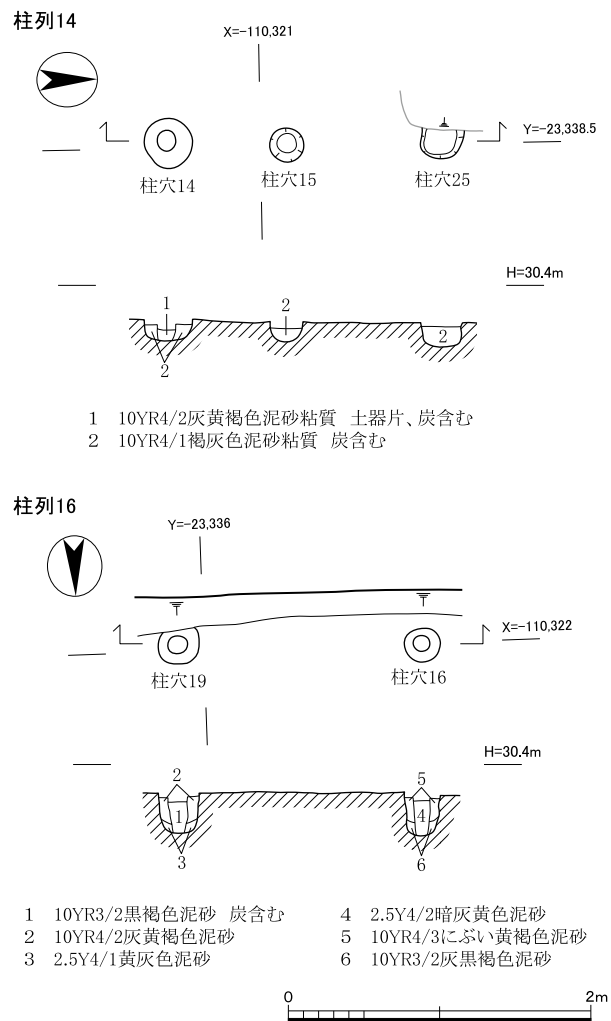


図14 3区柱列14・16実測図 (1:50)

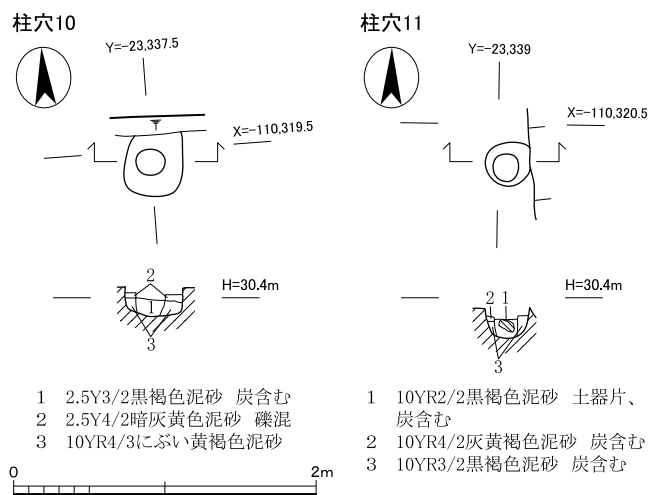


図15 3区柱穴10・11実測図（1：50）

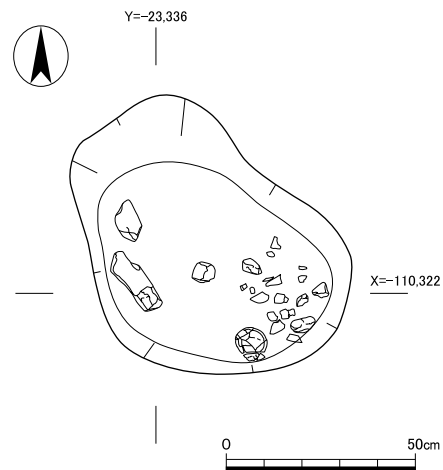


図16 3区土坑8土器出土状況図（1：20）

### 第1面（平安時代後期）

**柱穴群**（図15） 調査区中央で検出した。径0.2～0.3m、深さ0.2～0.3m。柱穴10・11・20には柱痕跡が確認できる。建物は復元できない。柱穴11から土師器皿と磁州窯系壺片、柱穴20から土師器皿が出土した。

**土坑6** 調査区の南西部で検出した。東西1.6m以上、南北1.0m以上、深さ約0.2m。南側・西側は調査区外に延び、北側を攪乱により削平される。溝13を塞いでいる状態であるが、溝13の最上層の可能性もある。埋土は灰黄褐色泥砂を主体とする。軒平瓦が出土した。出土した遺物は溝13と同時期である。

**土坑8**（図16、図版7） 調査区の南東隅で検出した。平面形は不定形を呈する。東西約0.7m、南北0.7m以上、深さ約0.2m。埋土は暗オリーブ褐色粗砂を主体とする。土器類がまとめて出土した。

**溝7** 調査区の南部で検出した東西方向の溝である。断面形は皿形を呈する。幅約0.2m、東西2.2m以上、深さ約0.1m。西側を土坑6、東側は攪乱により失う。埋土は暗灰黄色泥砂を主体とする。

**溝13** 調査区の西端で検出した南北方向の溝である。断面形は皿形を呈する。幅1.4m以上、南北2.4m以上、深さ約0.5m。南側と西側は調査区外に延び、北側は攪乱で削平される。埋土は灰黄褐色泥砂を主体とする。土器類と軒平瓦が出土した。坊城小路西築地心推定線から西に約6mの位置にある。

## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要 (表3)

遺物は、整理コンテナに23箱出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、土製品、石製品、銭貨、金属製品などがある。遺物の時期は、平安時代のものが大半を占め、鎌倉時代以降のものは少数である。以下では、図化できた平安時代の遺物の種別ごとに概要を述べる。各遺物の詳細については付表1～5にまとめた。

### (2) 土器類 (図17・18、図版8、付表1)

土器類は、溝・土坑・柱穴から出土した土師器・黒色土器・瓦器・須恵器・緑釉陶器・白色土器・灰釉陶器・輸入陶磁器などがある。遺物の時期は平安時代である<sup>1)</sup>。

平安時代中期整地層出土土器 (図17 1～32) 土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・白色土器・灰釉陶器が出土した。主体は2C～3A段階に属する土器群であるが、平安時代前期に遡る土器を含む。1～32はすべて3区で出土した。

土師器は皿(1～4)・椀(5)・杯(6)・椀杯(7・8)・甕(9・10)がある。1～3は皿A、4は皿Ac、5は椀Ae、6は杯Ae、7・8は椀杯Aである。黒色土器はA類の皿(11)・椀(12)がある。11は断面方形の高い高台がつく。須恵器は杯(13)・壺(14～16)・平瓶(17)がある。13は杯Bの底部外面に「福」を刻書する。緑釉陶器は皿(18～21)・椀(22～26)がある。21は山城産の耳皿である。22・23は山城産の椀である。削出しによる蛇の目高台がつく。25は山城産の輪花椀。高台畳付内側は露胎する。白色土器は皿(27)・椀(28)がある。灰釉陶器は皿(29・30)・蓋(31・32)がある。29・30は外端設置する断面方形の高台がつく。いずれも灰釉を刷毛塗りしており、29は外面全体、30は高台畳付内側が露胎する。31は壺蓋である。擬宝珠状のつまみがつく。32は大型の蓋である。環状つまみの内部に透かしをもつ。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、黒色土器、瓦器、須恵器、緑釉陶器、白色土器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、石製品、銭貨、金属製品		土師器21点、黒色土器2点、瓦器2点、須恵器5点、緑釉陶器9点、白色土器6点、灰釉陶器5点、輸入陶磁器5点、軒丸瓦1点、軒平瓦10点、土製品1点、銭貨1点、石製品1点		
鎌倉時代以降	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類、石製品、銭貨、金属製品				
合計		25箱	69点(2箱)	0箱	23箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。

平安時代中期整地層

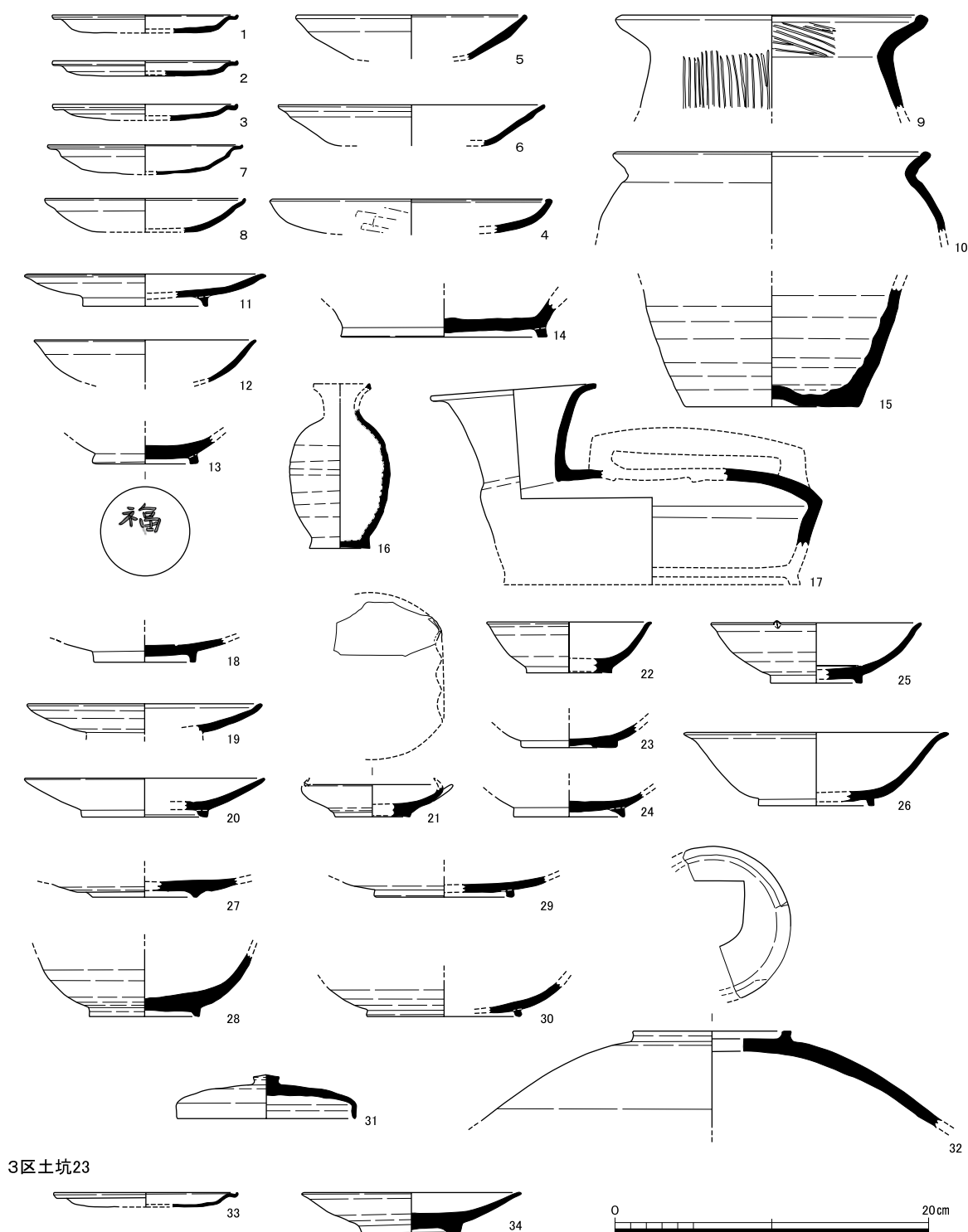


図17 土器実測図1 (1 : 4)

3区土坑23出土土器(図17 33・34) 土師器・白色土器が出土した。3A段階に属する土器群である。土師器は皿A(33)がある。白色土器は皿(34)がある。削出高台。

平安時代後期整地層出土土器(図18 35~40) 土師器・灰釉陶器・輸入陶磁器が出土した。平安時代中期・後期の土器がある。35・36・38は3区、37・39・40は1区で出土した。

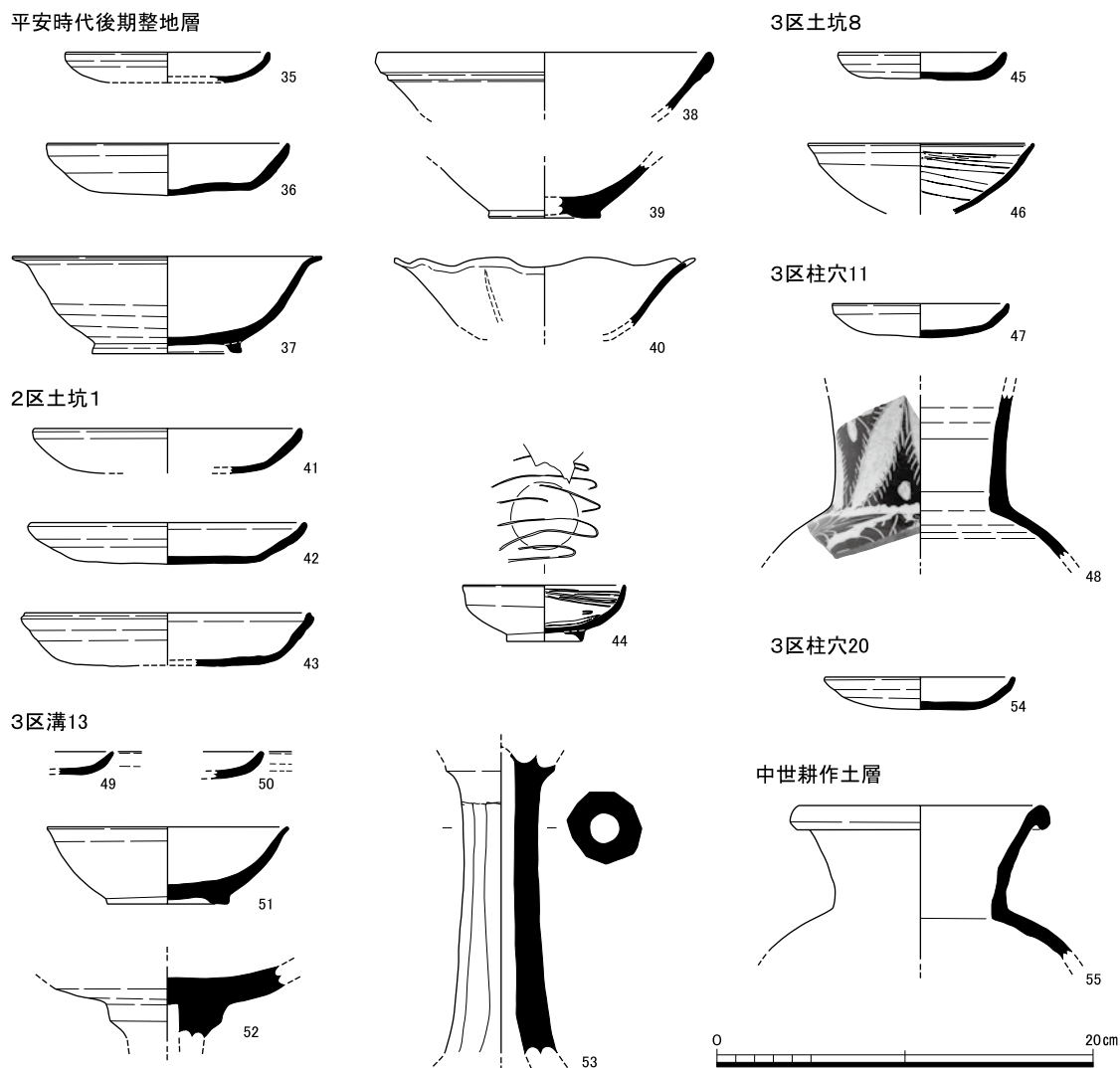


図18 土器実測図2 (1:4)

土師器は皿N (35・36) がある。灰釉陶器は椀 (37) がある。内面全体に灰釉を刷毛塗りしており、外面が露胎する。外端設置する断面方形の高台がつく。高台内中央に「|」のヘラ記号。輸入陶磁器は白磁 (38)・青磁 (39・40) がある。38は白磁椀である。39は越州窯系の青磁椀の底部。蛇の目高台がつく。全面に施釉しており、畳付に重ね焼きの目跡が残る。40は越州窯系の青磁輪花杯である。

2区土坑1出土土器 (図18 41~44) 土師器・瓦器が出土した。5B段階に属する土器群である。土師器は皿N (41~43) がある。瓦器は小型の杯 (44) がある。断面三日月形の高い高台がつく。見込みにジグザグ状の暗文をもつ。

3区土坑8出土土器 (図18 45・46) 土師器・瓦器が出土した。5段階に属する土器群である。土師器は皿N (45) がある。瓦器は楠葉産の椀 (46) がある。口縁内端部に沈線をもつ。内面にミガキを施す。

3区柱穴11出土土器 (図18 47・48) 土師器・輸入陶磁器が出土した。5段階に属する土器群である。土師器は皿N (47) がある。輸入陶磁器は磁州窯系の壺 (48) がある。胴部に白地黒掻

き落としの牡丹唐草文を配する<sup>2)</sup>。

3区溝13出土土器(図18 49~53) 土師器・白色土器が出土した。5段階に属する土器群である。土師器は皿N(49・50)がある。白色土器は碗(51)・高杯(52・53)がある。

3区柱穴20出土土器(図18 54) 土師器が出土した。54は土師器皿Nである。5段階に属する土器である。

中世耕作土層出土土器(図18 55) 輸入陶磁器が出土した。55は華南沿岸窯系の青磁壺である。3区で出土した。

### (3) 瓦類(図19、図版8、付表2)

瓦類には、溝・土坑から出土した軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦がある。

軒丸瓦(瓦1) 瓦1は複弁4弁蓮華文軒丸瓦。撥形の間弁をもつ。外区には界線と珠文が巡る。成形台による横置き一本造り技法で成形しており、瓦当裏面に布目が残る。3区平安時代中期整地層から出土した。平安時代中期に属する。山城産。

軒平瓦(瓦2~11) 軒平瓦は計7種10点を図化した。瓦2~4は平安時代中期、瓦5~11は平

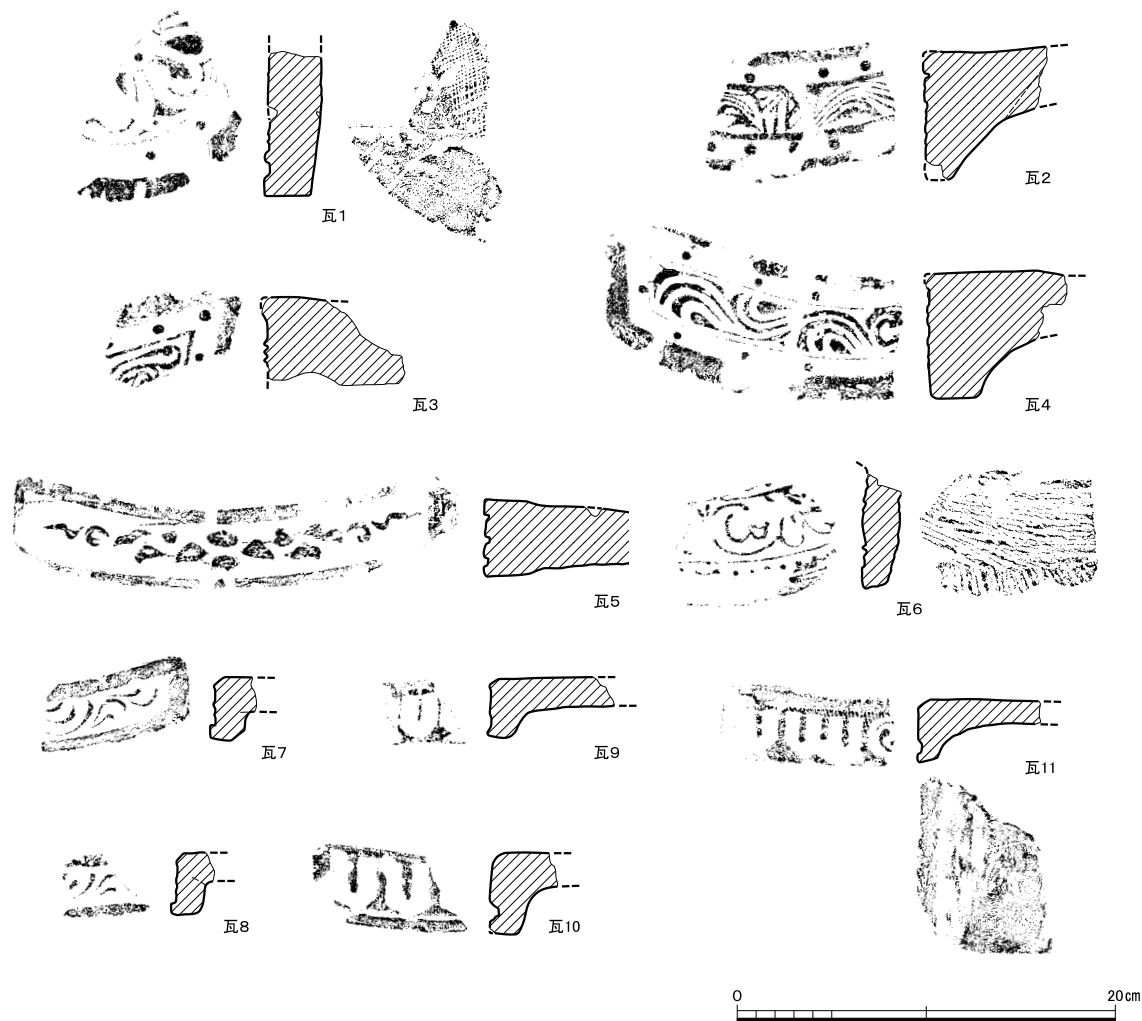


図19 軒瓦拓影及び実測図(1:4)

安時代後期から鎌倉時代に属する。

瓦2は均整唐草文で中心に「修」銘をもつ。3区土坑23から出土した。瓦3は唐草文で外区に界線と珠文が巡る。2区土坑1から出土した。瓦4は唐草文で対向C字形の中心飾りをもつ。3区平安時代後期整地層から出土した。瓦2～4は山城産である。

瓦5は宝相華唐草文で、中心に四葉からなる花文を置き、外方に三葉の花文・蕨手・波状の小葉の順に配する。平瓦の凸面に粗い縄タタキ目、凹面に布目圧痕を残す。3区平安時代後期整地層から出土した。讃岐産。

瓦6は唐草文で背向C字形の中心飾りをもつ。外区に界線・珠文がめぐる。瓦当下端と裏面に縄タタキ目を残す。3区平安時代後期整地層から出土した。丹波産。

瓦7・8は唐草文。折曲げ技法による成形で、平瓦凹面に布目圧痕を残す。瓦当上縁・側面・凸面にケズリを施す。瓦7が3区土坑6、瓦8が3区中世耕作土層から出土した。山城産。

瓦9～11は陰刻剣頭文。折曲げ技法による成形で、瓦当上縁・側面・凸面にケズリを施す。山城産。瓦10・11は平瓦凹面から瓦当面にかけて連続する布目圧痕を残す。瓦11は右巻きの巴文を中心飾りにもち、凸面にはヘラ記号がある。瓦9が3区平安時代後期整地層、瓦10が3区溝13、瓦11が3区中世耕作土層から出土した。

#### (4) その他の遺物 (図20、附表3～5)

土1は須恵器の風字硯である。硯面ナデ調整、裏面タタキ調整を施した後、側面に強いナデ調整を加える。3区平安時代後期整地層から出土した。

石1は石帯丸軛である。中央下辺寄りに垂孔をもち、裏面の3箇所<sup>3)</sup>に2孔1対の潜り穴を穿つ。各面を研磨するが、裏面の研磨精度は粗い。暗緑色の地に半透明の淡緑色の班文を加えた色調を呈する。3区平安時代中期整地層から出土した。

銭1は寛平大寶である。錯範銭で背輪ずれが認められる。3区平安時代中期整地層から出土した。

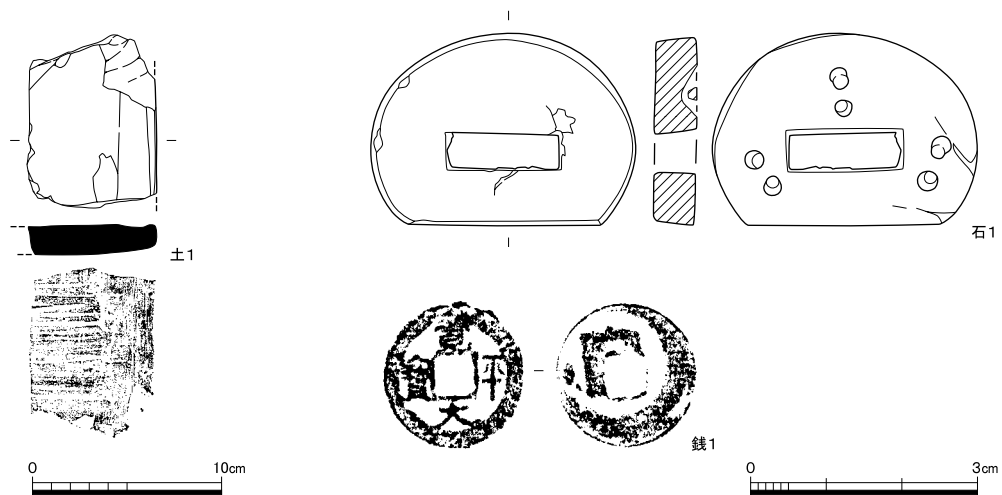


図20 その他の遺物拓影及び実測図 (土製品は1 : 4、石製品・銭貨は1 : 1)

註

- 1) 平安時代の土師器皿の型式・年代については、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019年に準拠した。

750年	840年	930年	1020年	1110年	1170年	1260年	1350年	1410年	1500年	1590年	1680年	1740年	1800年	1860年
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B	A B C	A B C	A B C	A B C	A B	A B	A B

その他土器類については、下記の文献を参照した。

『平安京提要』 角川書店 1994年

『大宰府条坊跡XV - 陶磁器分類編 -』 太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会 2000年

『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社 1995年

『新版 概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社 2022年

- 2) 『陶磁大系 39 磁州窯』 平凡社 1974年
- 3) 四隅に小さな穴をあけ、その間を工具で長方形に切り抜く技法（平尾2001の技法Aに該当する）を用いる。

平尾政幸「平安京の石製銚具とその生産」『研究紀要 第7号』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2001年



## 5. ま と め

調査では、平安時代の掘立柱建物・溝・土坑・柱穴・落込みなどの遺構を検出し、三町の南東部の土地利用についての資料を得ることができた。今回の調査成果を時期ごとにまとめ、三町の周辺調査成果をあわせて宅地の変遷について考える。

**平安時代中期（初頭）の遺構** 1区建物6は、掘立柱建物の南東隅部を検出しており、さらに北側と西側に延びるとみられる。柱間は2.4m（8尺）、柱径は約0.2mと推測され、小規模な建物と推測される。柱筋は調査区外にさらに延び、東西棟または南北棟となるかは不明である。

3区では、坊城小路西築地心推定線から西に5m以内の地点に南北・東西方向の柱列14・16や礎石列22を検出していることから、当該期には東隣の六町に広がる宅地が想定される。また、掘立柱建物を検出したことにより、建物などが配される空間であったことがわかった。

今回の調査では、前期の遺構は確認できないが、当該期の遺物が出土していることも注目される。また、中期後半の遺物が出土しないことは、周辺の調査と同様である。

**平安時代後期の遺構** 1区では建物6の廃絶後に東西方向の溝1が成立する。この溝は、三町の南北中心線である北四門と北五門境から南に約4mの位置にあることから、この時期の宅地内の区画施設もしくは宅地境界施設の可能性がある。

3区溝13は、坊城小路西築地心推定線から西に約6mの位置で確認した。距離はやや離れているが、築地心推定線に近い位置にあたることから、現状では三町宅地内の内溝と考えておきたい。溝埋土からは、12世紀の土器類や瓦類が出土した。中期の建物（柱列）が廃絶した後、宅地が分割される際に溝13が成立したとみられる。

**三町南東部における宅地の変遷** 三町の南端で平安時代前期から中期初頭にかけての池および池状堆積が検出されている（表1－試6～8）。池は西から北西へ向けて大きく広がり、南東へ向けて幅を狭めている。岸に沿って拳大の円礫が敷き詰められている部分もあり、西側では橋状遺構も確認されている。池の位置からすると南側の四町も含む宅地の可能性がある。

さらに、錦小路と坊城小路の交差点では、中期初頭に埋没した池状堆積が検出されており（表1－試8）、池状堆積が園池の一部であれば、三～六町の4町にわたる大型宅地があった可能性がある。

当公園内では、平安時代中期の整地層が広がり、当該地まで池が展開しない可能性が高まっていた（表1－試5）。今回調査では、想定していたとおり池は検出されず、池の北側に中期の掘立柱建物などが配される居住空間があったことが判明した。

後期にはそれぞれの町に居住者が知られることから、9世紀後半に池の機能が停止した後、広範囲にわたって整地がなされており、土地利用の変化に伴って土地改変が行われ、分割されたと推測できる。

朱雀大路に面した東側に位置する当調査地は、1町北側（一坊二町）には平安時代後期の散位従四位下大江公仲邸があり、次いで参議藤原為隆の仏堂が建立される。さらに1町南側（一坊四町）

には平安時代後期の権中納言源国信（坊城中納言）の邸宅、さらに朱雀大路を隔てた西側は「累代の後院」である朱雀院にあたるという中高級貴族の邸宅が集中する地域である。三町の居住者は明らかではないが、邸内に園池を備えた有力な貴族が存在したとみられる。

また、坊城小路西内溝と考えられる溝13は、12世紀に埋没しており、周辺の錦小路北側溝（表1－試8）、四条大路北側溝・内溝（表1－8）と同時代に廃絶していることが判明した。この時期に周辺一帯の条坊機能が停止したとみられる。

**鎌倉時代以降** 耕作地として近世まで継続して利用されていたことがわかった。

**出土遺物の特徴** 平安時代中期・後期の整地層から緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器などの高級食器類が多く出土した。3区平安時代中期整地層から出土した緑釉陶器は、猿投窯産の製品が約2割を占めており、冷泉院などと同様の比率であることが注目される。

輸入陶磁器には、白磁・青磁のほか磁州窯系の壺片が含まれていることも注目される。以前にも調査地である壬生御所ノ内町で磁州窯系の壺片が出土しており（表1－7）、三町の居住者の階層を推測する手掛かりとなる可能性がある。

付表1 土器類観察表

番号	器種	器形	地区	遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	備考
1	土師器	皿A	3区	平安時代中期 整地層	11.8	1.1		粒子密	10YR8/2	
2	土師器	皿A	3区	平安時代中期 整地層	11.8	1.0		粒子細かい	10YR7/2	
3	土師器	皿A	3区	平安時代中期 整地層	11.8	1.1		粒子細かい	10YR8/2	
4	土師器	皿Ac	3区	平安時代中期 整地層	17.6	2.2		雲母少量	5YR7/3	外面ケズリ
5	土師器	椀Ae	3区	平安時代中期 整地層	14.4	2.8		粒子密	10YR6/3	
6	土師器	杯Ae	3区	平安時代中期 整地層	16.6	2.6		粒子密	7.5YR7/4	
7	土師器	椀杯A	3区	平安時代中期 整地層	12.4	1.9		粒子細かい	10YR7/2	
8	土師器	椀杯A	3区	平安時代中期 整地層	12.8	2.2		粒子細かい	10YR8/2	
9	土師器	甕	3区	平安時代中期 整地層	19.0			1mm前後の石英・長石	10YR6/2	
10	土師器	甕	3区	平安時代中期 整地層	19.6			1mm以下の長石少量	10YR6/3	
11	黒色土器	皿	3区	平安時代中期 整地層	14.8	2.1	8.0	微細な雲母	10YR7/2	A類 貼付高台
12	黒色土器	椀	3区	平安時代中期 整地層	14.2			微細な長石・雲母・赤色粒	10YR7/3	A類
13	須恵器	杯B	3区	平安時代中期 整地層			6.3	0.5mm以下の長石・石英・ チャート	N7/0	底部外面に刻書「福」
14	須恵器	壺	3区	平安時代中期 整地層			13.0		N6/0	底部へラ切り後ナデ
15	須恵器	壺	3区	平安時代中期 整地層			11.0		N5/0	体部下半ケズリ 底部ナデ
16	須恵器	壺	3区	平安時代中期 整地層			3.8		N6/0	底部糸切り痕
17	須恵器	平瓶	3区	平安時代中期 整地層	10.6				N6/0	
18	緑釉陶器	皿	3区	平安時代中期 整地層			6.4		胎:7.5YR6/2 釉:10Y5/1	山城産 全面施釉 削出高台 見込みに凹線
19	緑釉陶器	皿	3区	平安時代中期 整地層	14.6				胎:7.5Y5/1 釉:7.5Y6/2	山城産
20	緑釉陶器	皿	3区	平安時代中期 整地層	15.2	2.5	8.0		胎:10YR6/4 釉:7.5Y4/2	美濃・近江産 全面施釉 貼付高台 見込みに凹線
21	緑釉陶器	耳皿	3区	平安時代中期 整地層	長10.6 短9.0	2.1	4.8		胎:2.8Y8/3	山城産 底部糸切り痕
22	緑釉陶器	椀	3区	平安時代中期 整地層	10.4	3.2	5.4		胎:2.5Y7/2 釉:5Y7/2	山城産 全面施釉 削出高台
23	緑釉陶器	椀	3区	平安時代中期 整地層			6.0		胎:10YR8/2 釉:5Y7/3	山城産 全面施釉 削出高台
24	緑釉陶器	椀	3区	平安時代中期 整地層			7.0		胎:2.5Y8/1 釉:7.5Y7/3	尾張産 貼付高台
25	緑釉陶器	椀	3区	平安時代中期 整地層	13.4	3.9	5.8		胎:N6/0 釉:10Y5/3	山城産 削出高台 見込みに凹線
26	緑釉陶器	椀	3区	平安時代中期 整地層	16.8	4.7	7.2		胎:2.5Y7/1 釉:5Y7/2	尾張産 貼付高台
27	白色土器	皿	3区	平安時代中期 整地層			6.6		10YR8/1	外面ミガキ 削出高台
28	白色土器	椀	3区	平安時代中期 整地層			7.0		10YR8/1	外面ミガキ 削出高台
29	灰釉陶器	皿	3区	平安時代中期 整地層			8.6		胎:10YR7/1 釉:5YR6/2	内面全面施釉

番号	器種	器形	地区	遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	備考
30	灰釉陶器	皿	3区	平安時代中期 整地層			9.8		胎:10YR7/1 釉:5Y7/1	内面全面施釉
31	灰釉陶器	蓋	3区	平安時代中期 整地層	11.4	7.7		2mm以下の長石	胎:10YR7/1 釉:7.5Y7/1	
32	灰釉陶器	蓋	3区	平安時代中期 整地層					胎:2.5Y8/1 釉:7.5Y6/2	環状つまみ径10.0cm 天井部に透かし?
33	土師器	皿A	3区	土坑23	11.8	0.9			10YR7/2	
34	白色土器	皿	3区	土坑23	14.0	2.6	6.2		10YR8/1	削出高台
35	土師器	皿N	3区	平安時代後期 整地層	10.8	1.6			10YR7/4	
36	土師器	皿N	3区	平安時代後期 整地層	12.8	2.8		1mm前後の長石	10YR8/2	
37	灰釉陶器	椀	1区	平安時代後期 整地層	16.4	5.2	7.9		胎:2.5Y7/1 釉:5Y6/2	内面全面施釉 高台内にヘラ記号
38	輸入陶磁器 白磁	椀	3区	平安時代後期 整地層	18.0			1.5mm以下の黒色粒	胎:5Y8/1 釉:10Y8/1	玉縁口縁
39	輸入陶磁器 青磁	椀	1区	平安時代後期 整地層			5.8		胎:2.5Y7/1 釉:5Y6/2	越州窯系 全面施釉 蛇の目高台、畳付に目跡
40	輸入陶磁器 青磁	杯	1区	平安時代後期 整地層	16.0				胎:2.5Y7/1 釉:5Y6/3	越州窯系 輪花(10弁)
41	土師器	皿N	2区	土坑1	14.2	2.4		1mm以下の長石	10YR7/3	
42	土師器	皿N	2区	土坑1	14.6	2.2		赤色粒多量	10YR7/3	
43	土師器	皿N	2区	土坑1	15.2	2.9		2mm以下の長石・チャート・ 赤色粒少量	10YR7/2	
44	瓦器	杯	2区	土坑1	8.6	3.0	4.0		胎:2.5Y8/1 表:N4/0	楠葉産 内面ミガキ 見込みにジグザグ状暗文
45	土師器	皿N	3区	土坑8	8.9	1.5		1mm以下の長石少量	10YR7/2	
46	瓦器	椀	3区	土坑8	12.0				胎:2.5Y8/1 表:N4/0	楠葉産 口縁内沈線 内面ミガキ
47	土師器	皿N	3区	柱穴11	9.2	1.8		2mm以下の褐色粒多量	10YR7/3	
48	輸入陶磁器 陶器	壺	3区	柱穴11				1.5mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒	胎:N7/0 釉: N1.5/0、N9/0	磁州窯系 白地黒搔落とし
49	土師器	皿N	3区	溝13					10YR8/1	
50	土師器	皿N	3区	溝13					10YR7/3	
51	白色土器	椀	3区	溝13	12.8	4.1	6.4		10YR8/1	削出高台
52	白色土器	高杯	3区	溝13					10YR8/1	
53	白色土器	高杯	3区	溝13					10YR8/1	
54	土師器	皿N	3区	柱穴20	10.0	1.7			10YR8/2	
55	輸入陶磁器 青磁	壺	3区	中世耕作土層	12.8				胎:2.5Y7/1 釉:7.5Y6/1	華南沿岸窯系 内面施釉

付表2 瓦類観察表

番号	種類	文様	成形技法等	地区	遺構	備考
瓦1	軒丸瓦	複弁4弁蓮華文。間弁は撥形。外区は界線・珠文。	瓦当成形台一本造成形。瓦当下半横ナデ。裏面は布目。	3区	平安時代中期整地層	9世紀後半～10世紀前半。山城産。
瓦2	軒平瓦	唐草文。中心に「修」銘。外区は界線・珠文。	曲線顎。瓦当成形不明。瓦当側面・裏面ナデ、凹面ケズリ。平瓦凸面ナデ、凹面布目。	3区	土坑23	9世紀後半～10世紀前半。山城産。大極殿・豊楽院跡(近藤ほか1977)、オウセンドウ廃寺(魔法禅寺)(木村1984)に同文。
瓦3	軒平瓦	唐草文。外区は界線・珠文。	顎不明。瓦当成形不明。瓦当側面ケズリ、凹面ナデ。平瓦凹面布目。	2区	土坑1	9世紀後半。山城産。
瓦4	軒平瓦	唐草文。中心に対向C字文。外区は界線・珠文。	曲線顎。瓦当成形不明。瓦当側面・凸面・凹面ケズリ、裏面ナデ。平瓦凹面布目。	3区	平安時代後期整地層	9世紀後半～10世紀前半。山城産。河上瓦窯(木村1975)、仁和寺(杉山ほか1990)、朝堂院跡(柏田ほか2013)に同文。
瓦5	軒平瓦	宝相華唐草文。	直線顎。瓦当成形不明。瓦当側面・凸面・凹面ケズリ。平瓦凸面布目、凹面縄タタキ。	3区	平安時代後期整地層	12世紀後葉。讃岐産。香川県ますえ畑瓦窯(上原1978)に同文。
瓦6	軒平瓦	唐草文。中心に背向C字文。外区は界線・珠文。	段顎。瓦当成形不明。瓦当下端・裏面縄タタキ。	3区	平安時代後期整地層	11世紀後半～12世紀。丹波産。
瓦7	軒平瓦	唐草文。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁ケズリ、側面・凸面ケズリ、裏面ナデ。平瓦凹面布目。	3区	土坑6	12世紀末～13世紀前半。山城産。法住寺殿跡(寺島ほか1984)、常盤仲ノ町集落跡(鈴木ほか1978)に同文。
瓦8	軒平瓦	唐草文。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁ケズリ、凸面ケズリ、裏面ナデ。	3区	中世耕作土層	瓦7と同文。
瓦9	軒平瓦	陰刻剣頭文。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁ケズリ、凸面ケズリ?、裏面ナデ。平瓦凹面ナデ。	3区	中世耕作土層	12世紀代。山城産。
瓦10	軒平瓦	陰刻剣頭文。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、側面・凸面ケズリ、裏面ナデ。瓦当面に平瓦凹面から連続する布目残存。平瓦凹面布目。	3区	溝13	12世紀代。山城産。
瓦11	軒平瓦	陰刻剣頭文。中心に巴文。	段顎。瓦当折曲成形。瓦当上縁横ケズリ、側面・凸面ケズリ、裏面ナデ。瓦当面に平瓦凹面から連続する布目残存。平瓦凸面ナデおよびへら記号、凹面布目。	3区	平安時代後期整地層	12世紀代。山城産。

## 文献

- 近藤喬一・上原真人・植山 茂・甲本真之・佐々木英夫・寺島 孝・乗安和二三・松井忠春『平安京古瓦図録』解説・図録篇 雄山閣 1977年 図録379・380
- 木村捷三郎「出土瓦の考察」『大谷中・高等学校内発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会 1984年 図16-7
- 木村捷三郎「京都洛北『河上瓦屋』址発見の宇瓦について」『古代文化』第27巻第10号 古代学協会 1975年
- 杉山信三・木村捷三郎・百瀬正恒『仁和寺境内発掘調査報告—御室会館建設に伴う調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1990年 図版20-88
- 柏田有香・吉本健吾「平安宮朝堂院跡・聚楽遺跡(12HQ61・183)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年 図7-9
- 上原真人「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』13・14 財団法人元興寺文化財研究所考古学研究室 1978年 図10-5～7
- 寺島孝一・片岡肇編『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯 財団法人古代学協会 1984年 第62図24・25
- 鈴木廣司・伊藤 潔・平尾政幸『常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告 日本電信電話公社嵯峨野社宅新築に伴う埋蔵文化財発掘調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告-III 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1978年 図版21-27

付表3 土製品観察表

番号	器種	地区	遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	胎土	色調	備考
土1	風字硯	3区	平安時代後期 整地層	(9.2)	(6.9)	1.7	径4mm以下の長石・石英・チャート・黒色粒	2.5Y6/1	硯面ナデ、裏面タタキ

付表4 石製品観察表

番号	器種	地区	遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	色調	備考
石1	石帯丸鞘	3区	平安時代中期 整地層	2.6	3.5	0.6	9.3	暗緑色	裏面3箇所にて2孔一対の潜り穴 各面研磨・裏面の研磨精度は粗

付表5 銭貨観察表

番号	種類	地区	遺構	外径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鑄年	備考
銭1	寛平大寶	3区	平安時代中期 整地層	1.90	0.55	0.17	2.33	890	錯範銭(背輪ずれ)

# 圖 版





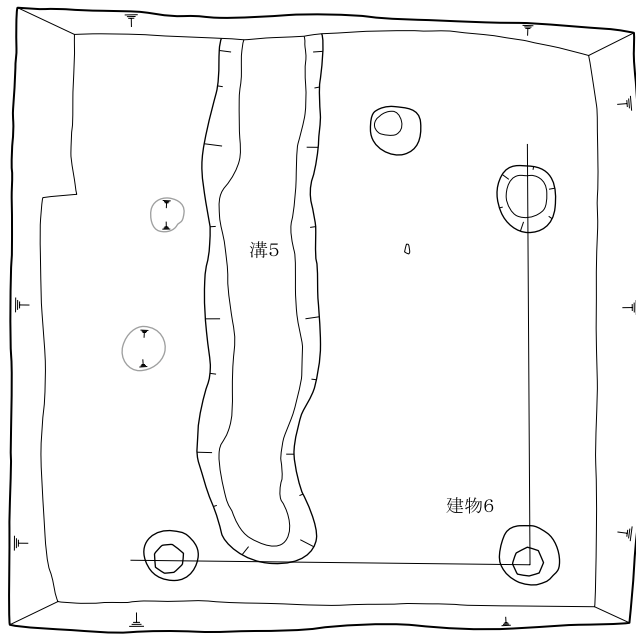


第2面

Y=-23.388

Y=-23.384

X=-110.304



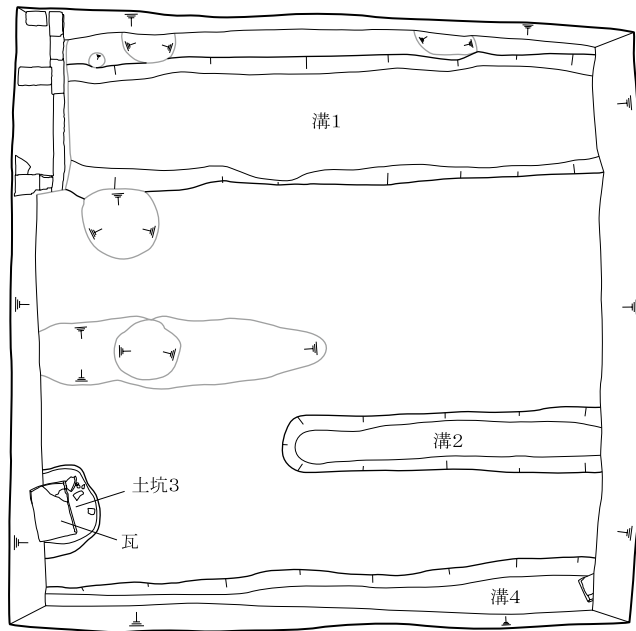
X=-110.308

第1面

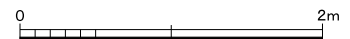
Y=-23.388

Y=-23.384

X=-110.304



X=-110.308



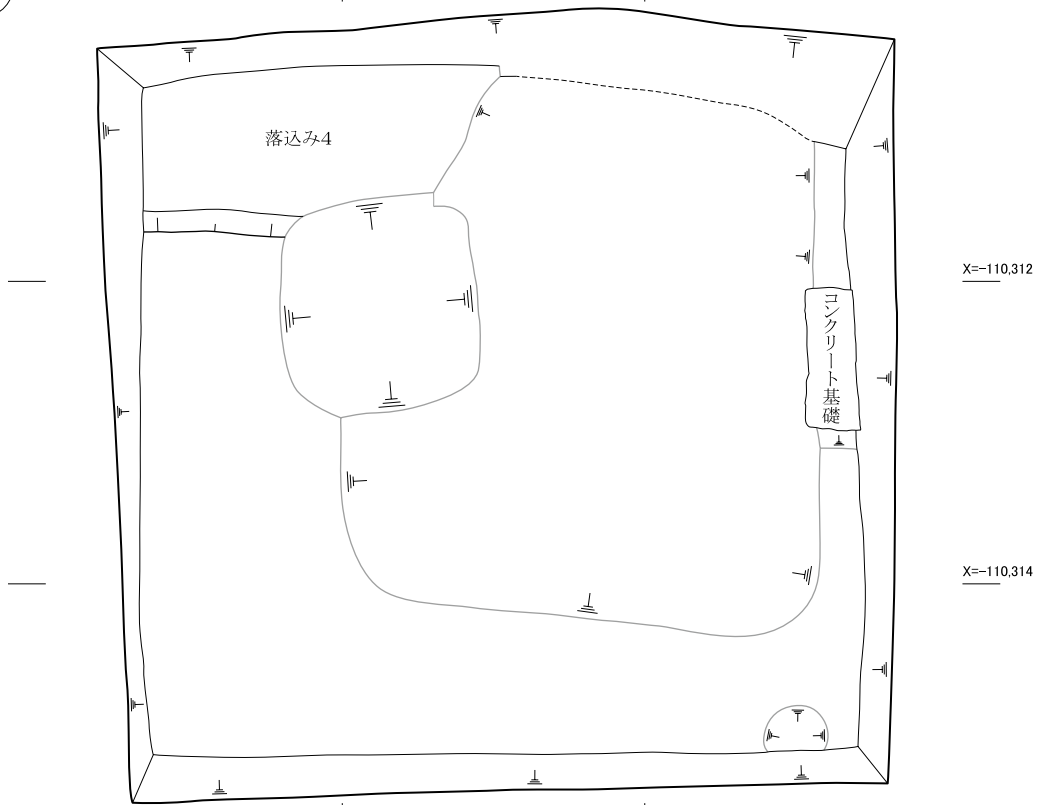
1区遺構平面図 (1:50)



第2面

Y=-23.374

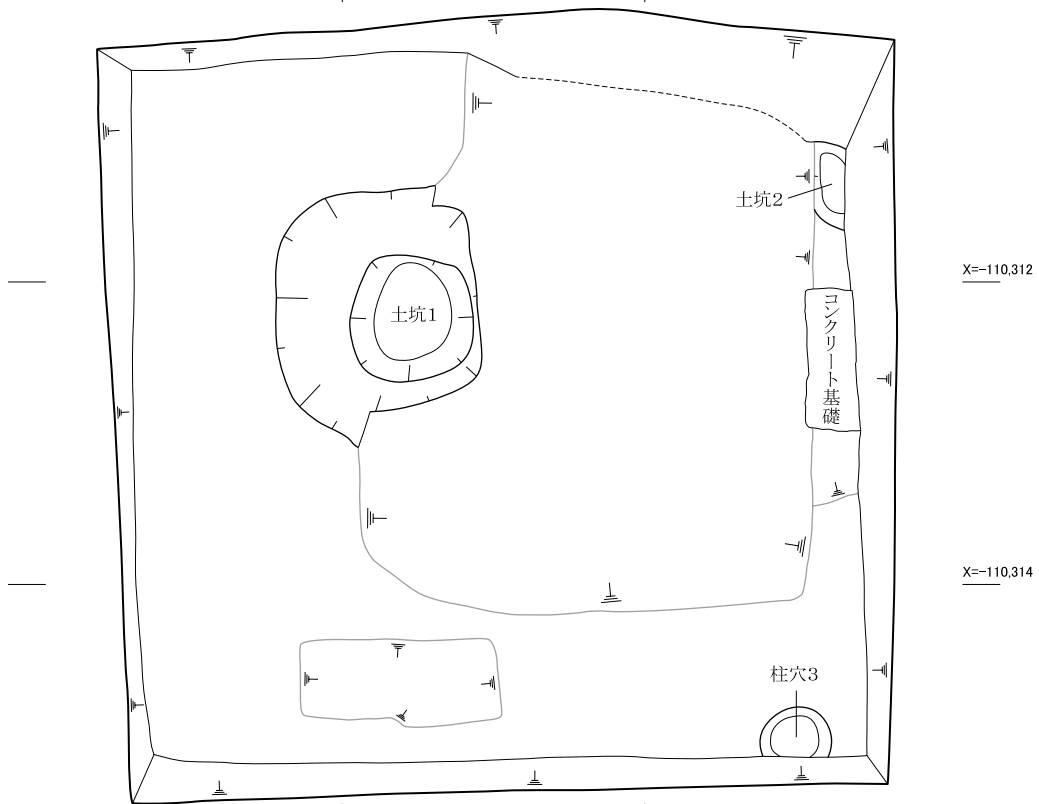
Y=-23.372



第1面

Y=-23.374

Y=-23.372

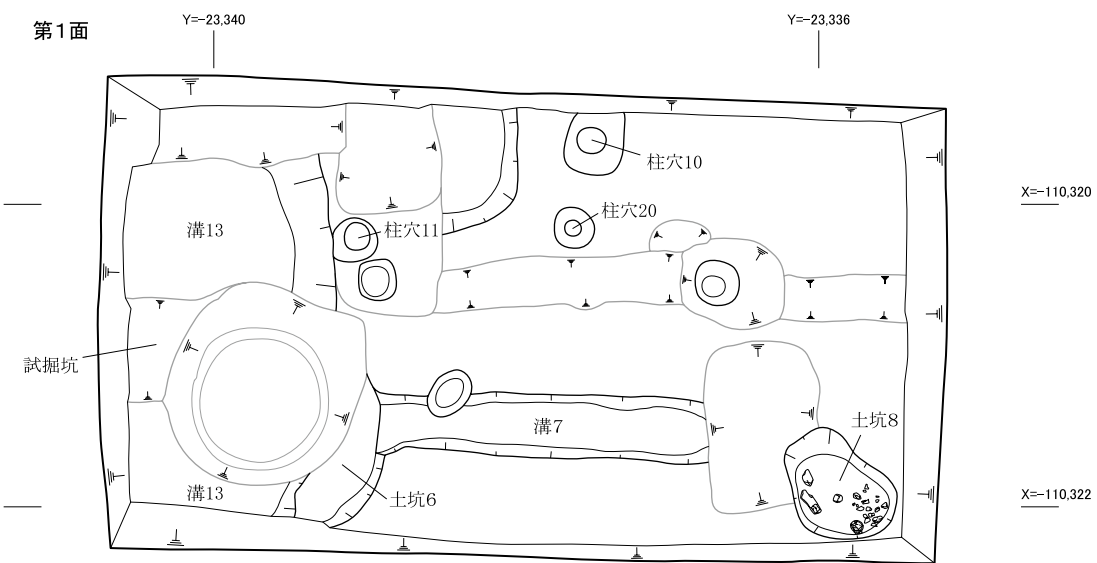
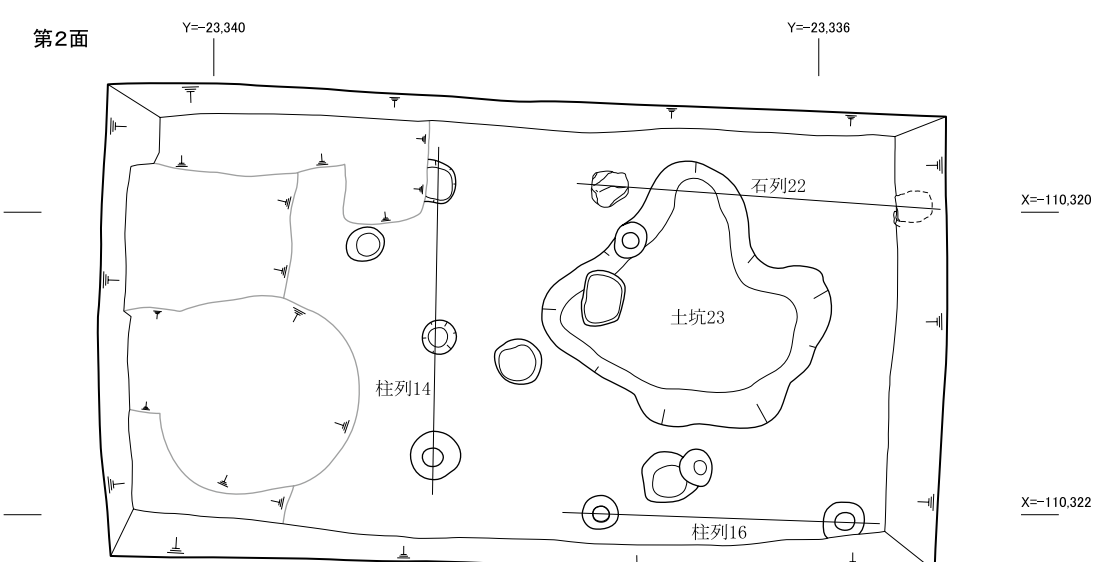
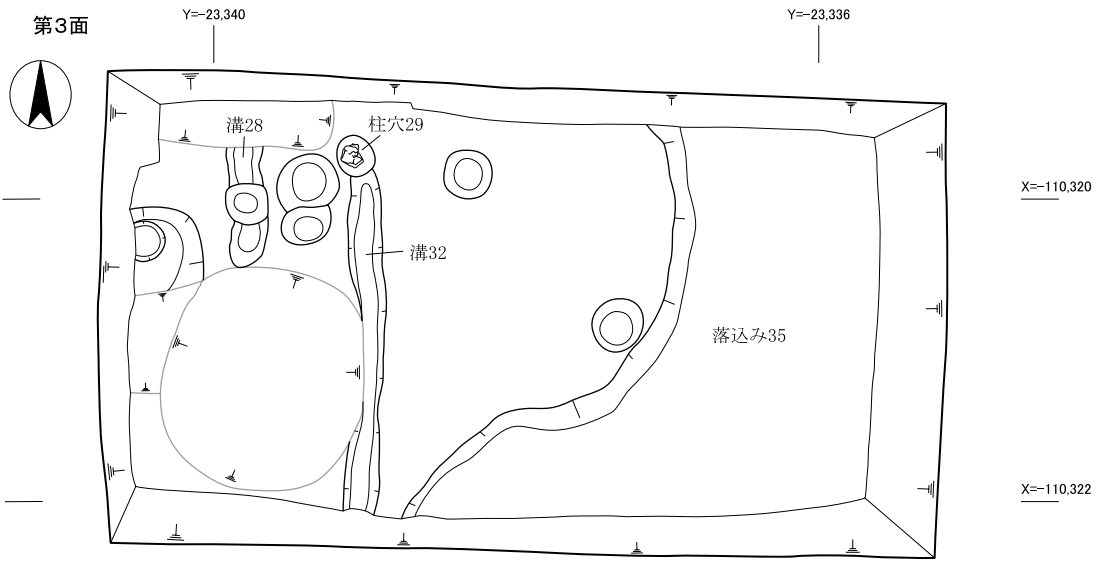


2区遺構平面図 (1 : 50)

坊城小路西築地心

坊城小路西築地心

坊城小路西築地心

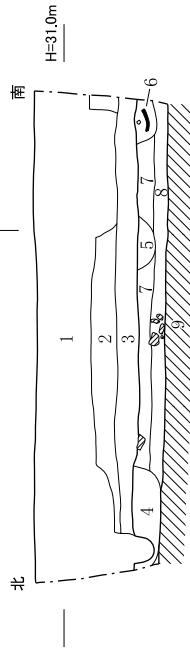


3区遺構平面図 (1:50)

調査区断面図 (1 : 60)

1区東壁

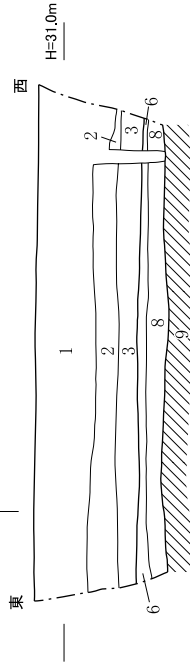
X=110.307



- 1 近現代盛土
- 2 2.5Y4/2暗灰黄色細砂 φ1~2cmの礫混 炭含む
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 土器片、炭含む(中世耕作土層)

1区南壁

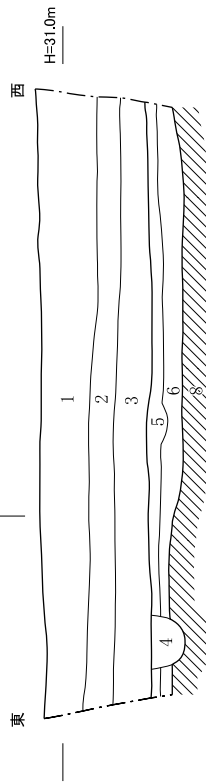
Y=23.385



- 4 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ4~5cmの礫混 土器片含む(溝1)
- 5 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂(溝2)
- 6 10YR5/2暗黄褐色泥砂 φ4~5cmの礫混 瓦含む(溝4)
- 7 10YR4/4褐色泥砂(平安後期整地層)
- 8 10YR4/2灰黄褐色シルト φ2~10cmの礫混(平安後期整地層)
- 9 2.5X4/1黄灰色シルト φ0.5~4cmの礫混(地山)

2区南壁

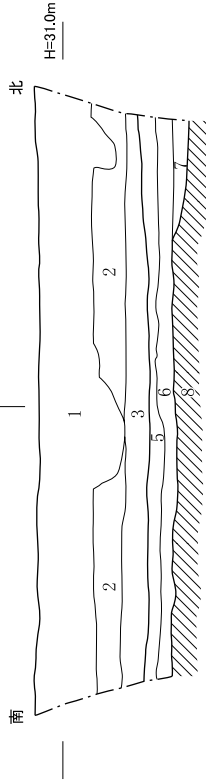
Y=23.372



- 1 近現代盛土
- 2 10YR4/2灰黄褐色泥砂 土器片、炭少量含む
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥 φ0.5~8cmの礫混 土器片、炭含む(中世耕作土層)

2区西壁

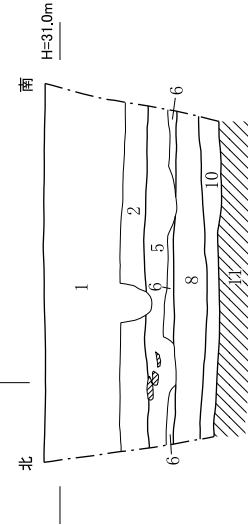
X=110.313



- 4 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂 土器片、炭含む(柱穴3)
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 φ1~8cmの礫混(平安後期整地層)
- 6 5Y3/2オリーブ黒色砂礫 φ0.5~10cmの礫多量混(平安後期整地層)
- 7 5Y3/1オリーブ黒色砂礫(落込み4)
- 8 10YR4/2灰黄褐色砂礫(地山)

3区東壁

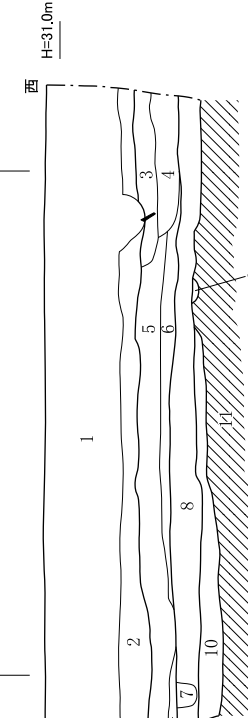
X=110.320



- 1 近現代盛土
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ0.5~5cmの礫混 土器片、炭含む(中世耕作土層)
- 3 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ1~10cmの礫混 土器片含む(土坑6)
- 4 10YR4/2灰黄褐色泥砂 土器片、炭含む(溝13)

3区南壁

Y=23.346



- 5 10YR5/2灰黄褐色泥砂 土器片、炭含む(平安後期整地層)
- 6 10YR4/4褐色細砂~粗砂 φ0.2~5cmの礫混(平安後期整地層)
- 7 10YR4/2灰黄褐色泥砂(柱穴16;柱穴19)
- 8 10YR3/2黒褐色泥砂 土器片、炭含む(平安中期整地層)
- 9 10YR3/2黒褐色泥砂 土器片含む(溝32)
- 10 2.5Y3/2黒褐色泥砂 φ0.2~3cmの礫混(落込み35)
- 11 10YR3/3暗褐色砂礫(地山)





1 1区第2面全景（西から）



2 1区第1面全景（東から）

図版6  
遺構



1 2区第2面全景（北から）



2 2区第1面全景（北から）





1 3区第3面全景（西から）



2 3区第2面全景（西から）



3 3区第1面全景（西から）



4 3区土坑8遺物出土状況（北西から）





# 報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょうしじょういちぼうさんちょうあと							
書名	平安京左京四条一坊三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2022-3							
編著者名	小檜山一良・中谷正和							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2022年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 みぶごしょうのうちちょう 壬生御所ノ内町 13番地	26100	1	35度 00分 19秒	135度 44分 38秒	2022年6月 14日～2022 年7月21日	57.5㎡	公園整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴、落込み	土師器、黒色土器、瓦器、須恵器、緑釉陶器、白色土器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、石製品、銭貨		平安時代後期の坊城小路西築地の内溝とみられる遺構を検出した。平安時代の整地層から灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器などが多く出土した。		
		鎌倉時代以降	耕作土	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、瓦類				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-3

## 平安京左京四条一坊三町跡

発行日 2022年12月28日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961